

景 気 動 向 調 査

(第 173 回)

2014 年 4 月 ~ 6 月 期 実 績

2014 年 7 月 ~ 9 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 仕入高または生産高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

- 1．実施時期 2014年6月下旬～2014年7月上旬
- 2．調査対象期間 2014年4月～6月期実績
 2014年7月～9月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業 302社
- 5．回答数 162通（回答率 53.6 %）
 <内訳> 製造業 52社 建設業 32社 卸・小売業 78社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について
 (2) 設備投資の動向について
 (3) 資金繰りの状況について
 (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

2014年4～6月期の岩手県内企業の景況感DIは、全体で31.7と前期（1～3月期）10.0に比較し、41.7ポイント大幅悪化となり、前期の駆け込み需要の反動が如実に現れた結果となった。

2014年7～9月期は全体的に改善見通しであるものの、収益の回復にはもう少し時間がかかると考えている経営者が多い結果となった。

D I（景気動向指数）推移

全業種ベース	4～6月期実績	7～9月期見通し
景況感	31.7	23.8
売上高・出荷高	3.7	2.5
収益	18.1	13.8
販売価格	24.2	22.0
仕入価格	52.2	48.4
資金繰り	1.8	5.7

国内経済は、全国的に見れば、消費税増税前の駆け込み需要により影響はあったものの、回復も早いとの報道が目立つ状況にある。しかしながら、地方においては大都市圏ほど回復感を感じられない。

消費税増税に加え、原油高による燃料費高騰や原材料高の影響が大きく、企業規模問わず、収益確保について苦慮している状況にあることが主要因である。

大手ゼネコンは東京オリンピック開催に向けた大型公共工事受注増加により被災地から東京都心へ現場のシフトが徐々に進むことから、震災復旧関連工事においては岩手県内の建設関連業種の受注がさらに増加する可能性がある。

雇用情勢について、岩手県内の有効求人倍率は1.08倍であるが、31ヶ月振りに全国平均（1.10倍）を下回った。今後は、求職・求人とも減少傾向になり、有効求人倍率は現在同様水準で推移する見通しである。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感DI」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感DI
1	第153回	09年1～3月	92.7
2	第152回	08年10～12月	91.3
3	第124回	01年10～12月	91.2
4	第109回	98年1～3月	90.6
5	第111回	98年7～9月	90.0

（1971（昭和46）年以降）

1. 県内景況感について

全体のD Iは、 31.7であった。

各業種別のD Iをみると、製造業が 27.0、建設業が 0、卸・小売業が 47.4と前回調査時と比べて景況感は悪化した。7～9月期見通しでは、製造業が 30.7、建設業が 9.7、卸・小売業は 32.9と製造業は悪化、建設業は改善、卸・小売業は改善するが依然厳しい見通しとなっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

D Iは、全体では 3.7であった。業種別では、製造業が 7.6、建設業が 3.1、卸・小売業が 14.2である。

(2) 仕入高または生産高

製造業の生産高はD Iが2.0、卸・小売業の仕入高は 1.3となっている。

(3) 在庫

製造業の製品在庫D Iは 25.6、卸・小売業の商品在庫は 0.1 となっている。

(4) 収益

D Iは、全体では 18.1となっている。業種別では、製造業が 3.8、建設業が 6.2、卸・小売業が 37.7である。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格は 24.2、仕入価格は 52.2 となっている。

3. 設備投資の動向について

全体で見ると、設備投資を「実施した」企業は 30.3%となっている。

業種別では、製造業が 32.0%、建設業が 29.1%、卸・小売業が 29.8%である。

また、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が2位、「省力化・合理化」が3位となっている。

4. 資金繰り状況について

D Iは、全体では 1.8であった。業種別では、製造業が 1.9、建設業が 18.8、卸・小売業が 2.6である。

5. 経営上の問題点について

全業種合計では「原材料・仕入価格高」、「売上・受注不振」、「人手不足」が上位を占めている。

1. 県内景況感について

～ 実績は全業種が悪化、見通しは建設業、卸・小売業が改善予想 ～

[4～6月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）をみると、全業種では「良い」と答えた企業が16.1%（前期35.1%）、「悪い」が47.8%（同25.1%）で、DIは 31.7（同10.0）と、前期に比べて41.7ポイント悪化した。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が 27.0（同 2.0）、建設業が0（同27.2）卸・小売業が 47.4（同10.3）となっており、全業種が悪化した。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が17.9%、「悪くなる」が41.7%であることから、DIは 23.8となり、4～6月期実績と比較すると改善する見通しとなっている。

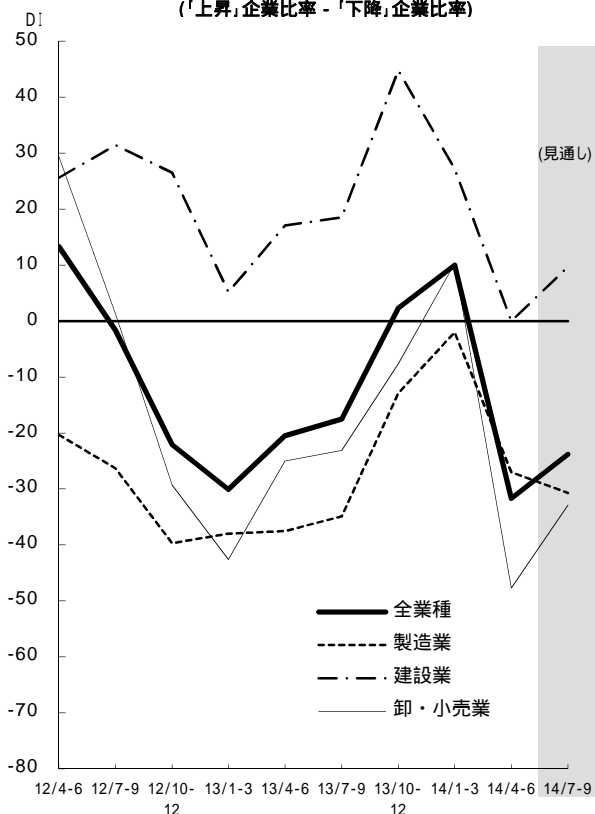
業種別にみると、製造業が 30.7、建設業が9.7、卸・小売業が 32.9となっており、製造業が悪化、建設業は改善、卸・小売業は改善するが依然厳しい見通しである。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い		
全業種	4～6月(実績)	1.2	14.9	36.1	39.1	8.7	-31.7
	7～9月(見通し)	0.6	17.3	40.4	37.2	4.5	-23.8
(製造業)	4～6月(実績)	1.9	17.3	34.6	38.5	7.7	-27.0
	7～9月(見通し)	0.0	16.3	36.7	42.9	4.1	-30.7
(建設業)	4～6月(実績)	3.2	22.6	48.4	16.1	9.7	0.0
	7～9月(見通し)	3.2	22.6	58.1	16.1	0.0	9.7
(卸・小売業)	4～6月(実績)	0.0	10.3	32.0	48.7	9.0	-47.4
	7～9月(見通し)	0.0	15.8	35.5	42.1	6.6	-32.9

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～実績は全業種で低下、見通しは建設業と卸・小売業が上向く予想～

[4～6月期の実績] 売上高・出荷高実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が35.8%(前期58.0%)、「減少」が39.5%(同25.2%)となり、D Iは 3.7(同32.8)と25.7ポイント低下した。

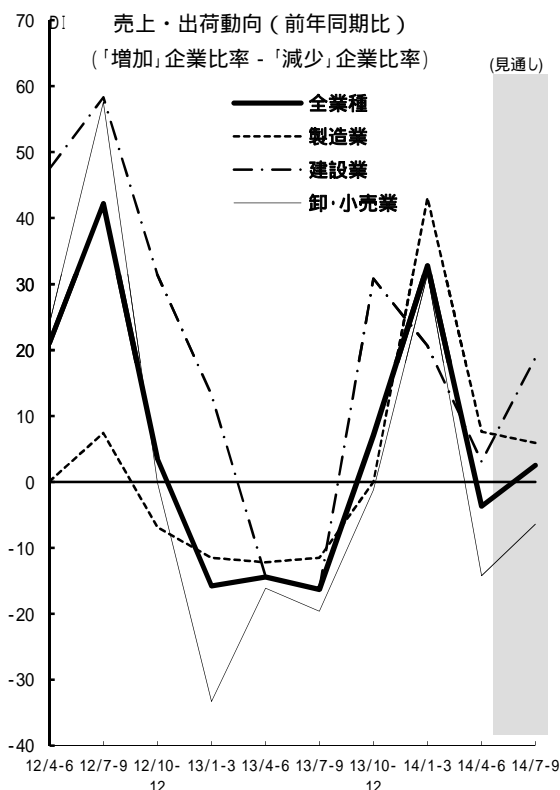
業種別にD Iをみると、製造業 7.6(前期43.1)、建設業 3.1(同20.6)、卸・小売業 14.2(同31.5)となっており、全業種が低下した。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が32.3%、「減少」が29.8%であることから、D Iは2.5で、4～6月期実績と比較して若干上向く見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業で5.9、建設業で18.8、卸・小売業で 6.4となっており、建設業と卸・小売業は上向き、製造業は若干低下する見通しである。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月(実績)	9.3	26.5	24.7	25.9	13.6	-3.7
	7～9月(見通し)	5.0	27.3	37.9	24.2	5.6	2.5
(製造業)	4～6月(実績)	11.5	28.8	27.0	23.1	9.6	7.6
	7～9月(見通し)	5.9	23.5	47.1	19.6	3.9	5.9
(建設業)	4～6月(実績)	9.4	25.0	34.3	18.8	12.5	3.1
	7～9月(見通し)	6.3	34.4	37.4	9.4	12.5	18.8
(卸・小売業)	4～6月(実績)	7.7	25.6	19.2	30.8	16.7	-14.2
	7～9月(見通し)	3.8	26.9	32.2	33.3	3.8	-6.4



(2) 仕入高または生産高

～ 製造業と卸・小売業とも実績は低下、見通しは上向き予想～

[4～6月期の実績] 仕入高・生産高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が37.3%（前期56.8%）、「減少」が35.3%（同23.5%）であり、DIは2.0（同33.3）と31.3ポイント低下した。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は41.6%（前期60.8%）、「減少」が42.9%（同18.8%）で、DIは1.3（同42.0）と43.3ポイント低下した。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が32.0%、「減少」が24.0%であることから、DIは8.0で、4～6月期実績と比較して6ポイント上向き見通しとなっている。

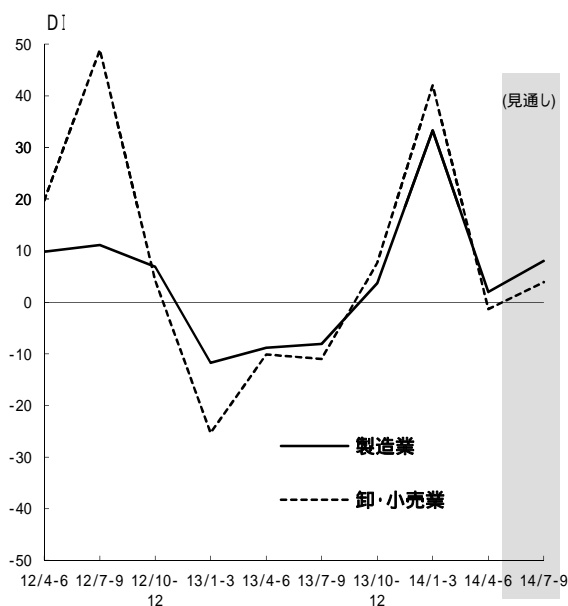
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が35.1%、「減少」が31.2%であることから、DIは3.9となり上向き見通しである。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	4～6月 (実績)	11.8	25.5	27.4	27.5	7.8	2.0
	7～9月 (見通し)	4.0	28.0	44.0	20.0	4.0	8.0
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	9.1	32.5	15.5	29.9	13.0	-1.3
	7～9月 (見通し)	5.2	29.9	33.7	29.9	1.3	3.9

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 在庫実績は製造業横ばい、卸・小売業減少。在庫水準はほぼ適正に推移 ～

[4～6月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は11.7%（前期12.0%）、「減少」が37.3%（同38.0%）であることから、DIは25.6（同26.0）となった。また、製品在庫水準については、「過大」が13.7%（同13.0%）、「適正」が68.6%（同80.5%）、「不足」が17.7%（同6.5%）である。

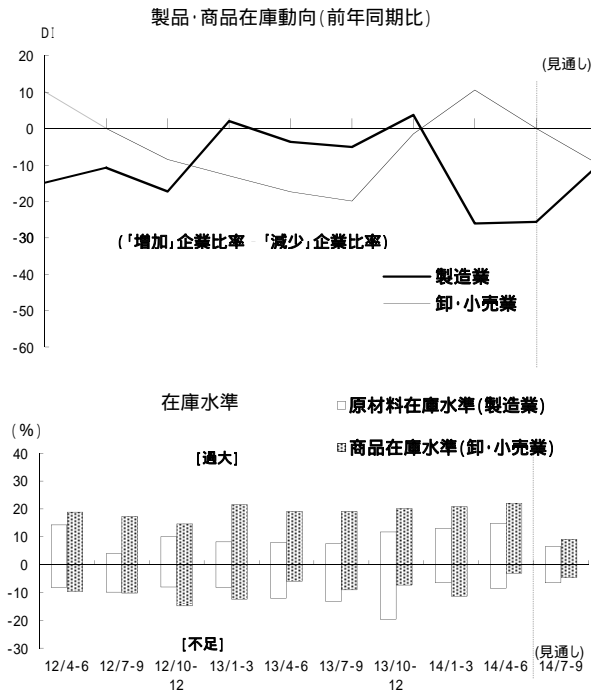
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が20.6%（前期30.3%）、「減少」は20.5%（同19.7%）であることから、DIは0.1（同10.6）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が22.1%（同20.9%）、「適正」が74.9%（同67.8%）、「不足」が3.0%（同11.3%）である。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が10.2%、「減少」が20.4%で、DIは10.2となっている。また、同じく製品在庫水準については「過大」とみる企業が4.3%、「適正」が78.7%、「不足」が17.0%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が12.3%、「減少」が21.9%であることから、DIは9.6となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が9.2%、「適正」が86.2%、「不足」が4.6%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）						DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少		
（製造業）	4～6月 （実績）	3.9	7.8	51.0	27.5	9.8	-25.6	
	7～9月 （見通し）	2.0	8.2	69.4	16.3	4.1	-10.2	
（卸・小売業）	4～6月 （実績）	1.4	19.2	58.9	16.4	4.1	0.1	
	7～9月 （見通し）	0.0	12.3	65.8	20.5	1.4	-9.6	



(4) 収 益

～収益実績は製造業と卸・小売業は低下、建設業は上向き。
見通しは建設業が低下予想～

[4～6月期の実績] 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が28.5%（前期39.4%）、「減少」が46.6%（同32.9%）であり、D Iは 18.1（同6.5）となり24.6ポイント低下した。

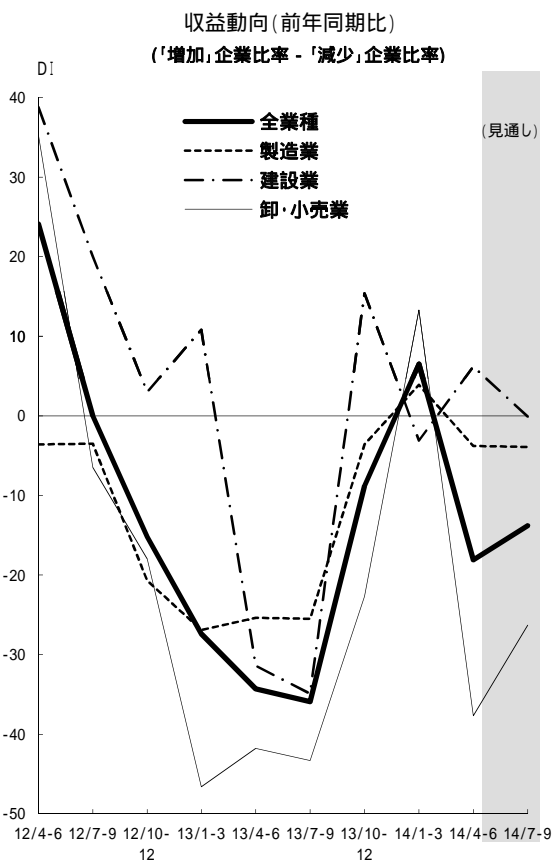
業種別にD Iをみると、製造業 3.8（前期3.9）、建設業6.2（ 3.1）、卸・小売業 37.7（同13.3）と製造業と卸・小売業は低下、建設業は上向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が23.9%、「減少」とみる企業が37.7%であることから、D Iは 13.8で、4～6月期実績と比較して上向き見通しである。

業種別にD Iをみると、製造業 3.9、建設業 0.1、卸・小売業 26.3で、4～6月期実績と比較して、建設業は低下、卸・小売業は上向き見通しである。

収 益(前年同期比)

		D I (%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月(実績)	3.7	24.8	24.9	31.1	15.5	-18.1
	7～9月(見通し)	3.1	20.8	38.4	31.4	6.3	-13.8
(製造業)	4～6月(実績)	3.8	30.8	27.0	28.8	9.6	-3.8
	7～9月(見通し)	3.9	15.7	56.9	19.6	3.9	-3.9
(建設業)	4～6月(実績)	6.3	28.1	37.4	21.9	6.3	6.2
	7～9月(見通し)	3.1	25.0	43.7	21.9	6.3	-0.1
(卸・小売業)	4～6月(実績)	2.6	19.5	18.1	36.4	23.4	-37.7
	7～9月(見通し)	2.6	22.4	23.7	43.4	7.9	-26.3



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売価格、仕入価格とも上昇見通し ～

[4～6月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が36.0%（前期30.8%）、「低下」が11.8%（同11.2%）であることから、DIは24.2（同19.6）と上昇した。

仕入価格（前年同期比）も、全業種では「上昇」と答えた企業が56.5%（前期56.9%）「低下」が4.3%（同5.2%）であることから、DIは52.2（同51.7）と上昇した。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が32.1%、「低下」とみる企業が10.1%であることから、DIは22.0で、引き続き上昇見通しである。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が51.5%、「低下」とみる企業が3.1%であることからDIは48.4となり、引き続き上昇見通しである。

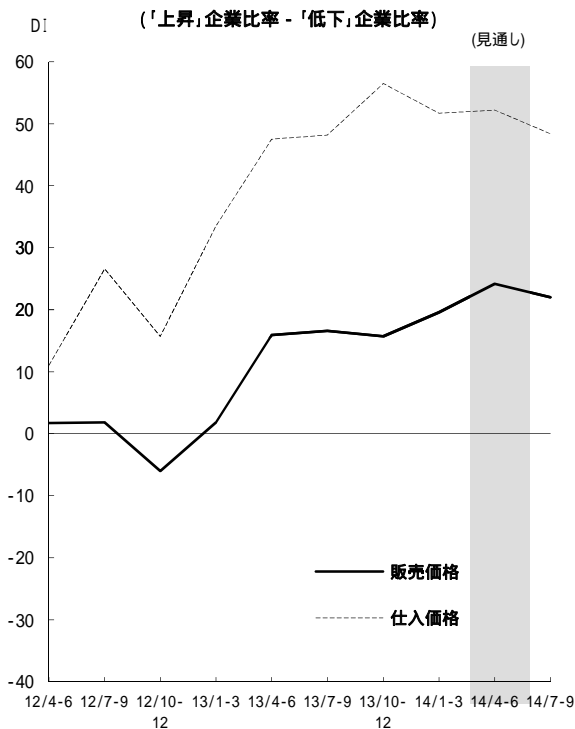
販売価格(前年同期比)

		（％）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	2.5	33.5	52.2	10.6	1.2	24.2
	7～9月 (見通し)	1.9	30.2	57.8	10.1	0.0	22.0

仕入価格(前年同期比)

		（％）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	5.6	50.9	39.2	3.7	0.6	52.2
	7～9月 (見通し)	5.0	46.5	45.4	3.1	0.0	48.4

価格動向(前年同期比)



3.設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

～ 見通しは全業種で増加予想 ～

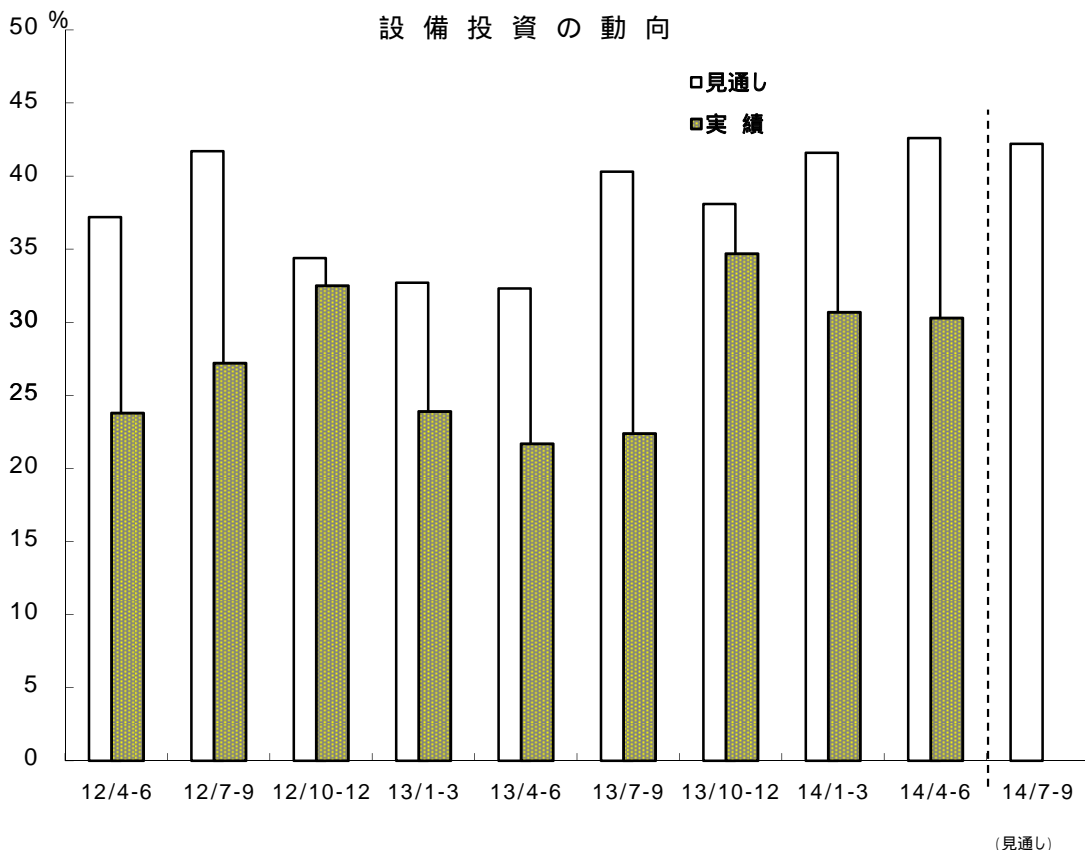
[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は30.3%（前期30.7%）と前期と同水準に推移した。

これを業種別にみると、製造業32.0%（前期34.0%）、建設業29.1%（同26.5%）、卸・小売業29.8%（同30.4%）であり、全業種で大きな変化はない。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で22.1%（前期27.3%）、「計画はあるが具体化していない」は20.1%（同15.3%）、「計画はない」は57.8%（同57.4%）であった。

「計画あり」は合計42.2%（同42.6%）とほぼ横ばいに推移する見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で53.1%（前期56.0%）、建設業で32.3%（同29.1%）、卸・小売業で39.2%（同39.1%）の見通しとなっている。



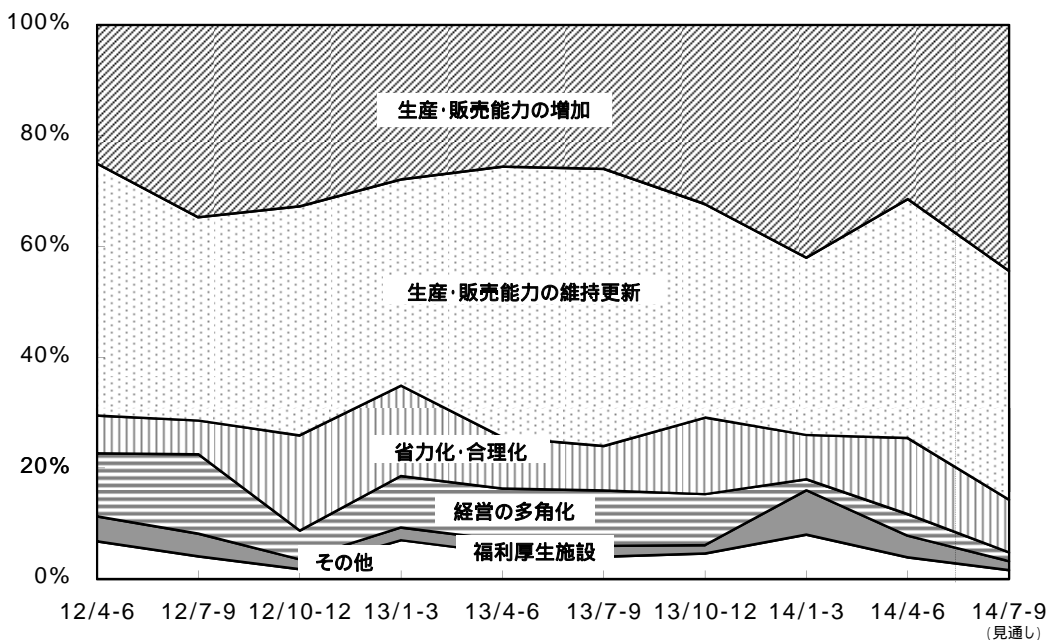
(2) 設備投資の目的

[4～6月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(30.3%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が43.1%(前期32.0%)でトップとなり「生産・販売能力の増加」が31.4%(同42.0%)で2位となった。

業種別にみると、全業種とも「生産・販売能力の維持更新」がトップであった。

[7～9月期の見通し] 今後3カ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(42.2%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の増加」が44.4%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の維持更新」41.3%、「省力化・合理化」が9.5%で3位となっている。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 資金繰りの実績は全業種で改善、見通しは建設業と卸・小売業で悪化予想～

[4～6月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が23.6%(前期18.7%)、「苦しくなった」が21.8%(同25.2%)であることから、D Iは1.8(同 6.5)と改善した。

業種別にD Iをみると、製造業が 1.9(前期 5.8)、建設業が18.8(同 5.9)、卸・小売業は 2.6(同 7.3)と全業種において改善した。

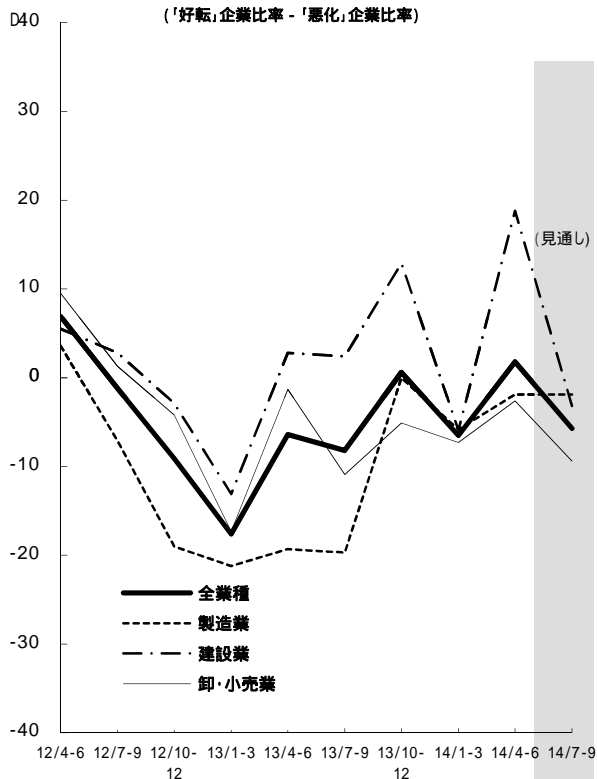
[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が15.3%、「苦しくなる」が21.0%で、D Iは 5.7となり、4～6月期実績と比較して、悪化見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業 1.9、建設業 3.2、卸・小売業 9.4となっており、建設業と卸・小売業で悪化見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		(%)					D I
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	
全業種	4～6月 (実績)	3.7	19.9	54.6	19.3	2.5	1.8
	7～9月 (見通し)	1.3	14.0	63.7	19.1	1.9	-5.7
(製造業)	4～6月 (実績)	7.7	15.4	51.9	21.2	3.8	-1.9
	7～9月 (見通し)	1.9	13.5	67.3	13.5	3.8	-1.9
(建設業)	4～6月 (実績)	6.3	21.9	62.4	9.4	0.0	18.8
	7～9月 (見通し)	3.2	12.9	64.6	16.1	3.2	-3.2
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	0.0	22.1	53.2	22.1	2.6	-2.6
	7～9月 (見通し)	0.0	14.9	60.8	24.3	0.0	-9.4

資金繰り動向(前期比)
(「好転,企業比率」-「悪化,企業比率」)



(2) 現金・預金

[4~6月期の実績] 現金・預金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が25.6%(前期20.3%)、「減少した」が26.9%(同33.9%)であることから、DIは1.3(同13.6)と上向いた。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が19.4%、「減少する」が23.2%であることから、DIは3.8と低下する見通しとなっている。

(3) 金融機関借入

[4~6月期の実績] 金融機関借入金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が14.8%(前期17.5%)、「減少した」が33.9%(同34.9%)であることから、DIは19.1(同17.4)とほぼ横ばいに推移した。

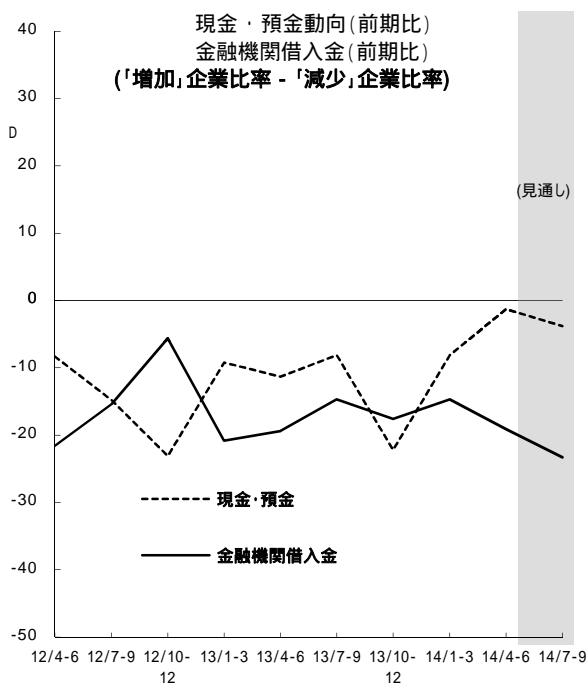
[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が10.0%、「減少する」が33.3%であることから、DIは23.3と低下する見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	4~6月 (実績)	5.0	20.6	47.5	22.5	4.4	-1.3
	7~9月 (見通し)	2.6	16.8	57.4	21.3	1.9	-3.8

金融機関借入金(前期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	4~6月 (実績)	2.6	12.2	51.3	28.8	5.1	-19.1
	7~9月 (見通し)	1.3	8.7	56.7	30.0	3.3	-23.3



(4) 販売代金回収期間

〔4～6月期の実績〕 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が5.7%（前期4.5%）、「長くなった」が3.8%（同8.4%）であることから、DIは1.9（同 3.9）となった。また、90.5%（同87.1%）の企業は「変わらない」としている。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が2.6%、「長くなる」が5.2%であることから、DIは 2.6となる。また、92.2%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

〔4～6月期の実績〕 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が0.6%（前期1.3%）、「短くなった」が3.1%（同3.8%）であることから、DIは 2.5（前期も同じ）となった。また、96.3%（前期94.9%）の企業は「変わらない」としている。

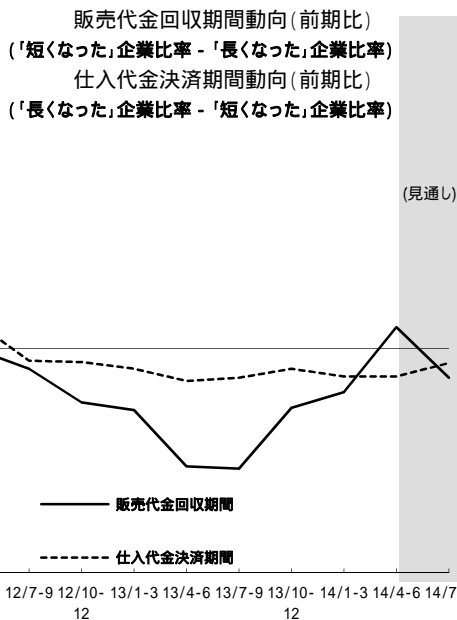
〔7～9月期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が0%、「短くなる」が1.3%であることから、DIは 1.3となる。また、98.7%の企業は「変わらない」とみている。

販売代金回収期間(前期比)

		(%)					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	4～6月 (実績)	1.3	4.4	90.5	2.5	1.3	1.9
	7～9月 (見通し)	0.0	2.6	92.2	5.2	0.0	-2.6

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	4～6月 (実績)	0.0	0.6	96.3	2.5	0.6	-2.5
	7～9月 (見通し)	0.0	0.0	98.7	1.3	0.0	-1.3



5. 経営上の問題点について

～ 経営上の問題は製造業は「原材料・仕入価格高」、建設業は「人手不足」、卸・小売業は「売上・受注不振」～

4～6月期における経営上の問題点をみると、全業種では「原材料・仕入価格高」19.6%（前期21.2%）、「売上・受注不振」18.6%（前期17.2%）、「人手不足」15.8%（同13.2%）となっている。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「原材料・仕入価格高」が23.7%と1位、続いて「売上・受注不振」が19.4%が2位、「収益不振」が14.0%で3位となっている。建設業では「人手不足」が30.8%で1位となり、「原材料・仕入価格高」が21.2%、「売上・受注不振」が15.4%の順となっており、「人手不足」が5期連続でトップになっている。卸・小売業では「売上・受注不振」が19.9%で1位、「原材料・仕入価格高」16.2%、「収益不振」が13.2%となっている

